

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770500132		
法人名	医療法人おもと会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	沖縄県宜野湾市嘉数4-4-10		
自己評価作成日	平成27年8月18日	評価結果市町村受理日	平成27年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.katgokensaku.jp/477/index.php?action=kouinyou_detai_1_2014_022_kihon=true&amp;ligyasvoCd=4770500132-">http://www.katgokensaku.jp/477/index.php?action=kouinyou_detai_1_2014_022_kihon=true&amp;ligyasvoCd=4770500132-</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成27年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が安心して生活できるように、笑顔と温かさを基本に接しています。入居者様への支援をより良いものにするために職員間の情報共有とスキルアップを行っています。地域の方々との交流をもっとできるように外出支援や認知症サポーター養成講座などを行っていきたい。アピール点として、3食ホームにて調理提供し、入居者様とのおやつ作りを支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、介護老人保健施設を母体としている。同じ敷地内の1階に小規模多機能型居宅介護事業所があり、2階が本事業所となっており、開設後15年経過している。「事業所独自の理念」の他に職員からの希望で「職員理念(いつも明るく・いつも温かく・太陽のような存在)」を掲げ、モットーである「笑顔」の標語を事業所内の数か所に貼って、職員は努力している。共有空間や居室は広々としており、事業所周辺の庭は芝生が敷き詰められ、外気浴ができる環境である。法人施設全体で職員研修を実施し、災害時や緊急時等に支援が得られる対応体制が法人として整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成27年11月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、職員詰所、ホーム内の見えやすい場所に理念を掲示し、職員全員で把握し、実践している。	「事業所の基本理念」と「職員理念」の両方を誦い、業務の多忙時や支援に迷った時等は、理念に立ち戻ることを管理者が常に職員に伝え、ケアを実践している。調理場に鏡を設置し、職員はいつでも自分の表情を映すことで理念の「笑顔」の確認にも努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、お祭り等参加できるよう支援し、ミニデイに参加できるよう支援している。	今年、初めて区の祭り見物を実施している。事業所は、法人施設の敷地内にあり、近隣住民の立ち寄り少ない。管理者は、近隣住民の認知症理解が未だ不十分だと捉えており、事業所が地域へ果たす役割と課題を模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ介護相談や認知症サポーター養成講座の案内を発信しているが、まだまだPRできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。開催時は包括、自治会、行政担当等、意見交換を行っている。	運営推進会議は小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催し、利用者や行政職員、5カ所の自治会長が参加している。会議は1時間の設定で、両事業所の状況報告が主となっている。1年間、家族の参加がなく、行政職員の参加が1回は確認できなかった。	運営推進会議の主旨を理解し、2事業所合同で家族の参加が得られるよう検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護事故報告のみならず、推進会議、宜野湾市グループホーム連絡会にて情報交換している。	行政職員とは、運営推進会議や年2回の市グループホーム連絡会で情報交換を行っている。行政職員から研修案内等が直接あるが、特徴的な事例の場合以外には、日頃は利用者についての相談等はほとんどない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員入職時に勉強会を開催し理解してもらう。入口の鍵についても法人、家族へ協力願うが、廃止までは至っていない。	職員行動指針で、人権の尊重や身体拘束禁止等を掲げ、職員に周知させている。事業所は敷地内への車の出入りが危なく、しかも急坂なため、入り口は施錠している。職員は屋外へ出たがる利用者の行動を観察し、一緒に散歩等に出かけている。	

沖縄県(グループホーム さくら )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内だけではなく法人全体での勉強会や研修に参加して全職員が理解し、廃止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人、ホーム内にて勉強会を行っている。現在該当者はいない為支援は行ったことがない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	紙面、口頭にて説明を行い、入居者、家族が理解、納得した上で契約や解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誰でも投函できる意見箱を設置している。行事や家族会にて入居者、家族の意見や要望の確認を行っている。	利用者のほぼ全員が意志疎通が可能で、直接意見等を聞いている。家族からは、年2回の家族会や面会時に聞く機会がある。家族が意見や要望を話しやすい雰囲気作りとして、職員は挨拶を心掛け、家族会の話の場に加わることもあるが、意見等は殆どない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会にて意見、要望を確認、提案された事項は速やかに検討、反映できるように努めている。年に1回個別面談も行っている。	管理者は、年1回の面談や毎月の会議を職員の意見を聞く機会としている。職員から「入浴は原則午前とし、希望があれば午後も支援してはどうか」「食事前の排泄介助の仕方」等の提案があり、ケアの充実に反映させている。職員の欠員補充の要望は、法人に早急な対応をお願いしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間の配慮を行っている。希望の休暇等毎月確認し反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人でのメンタルヘルス研修等への派遣を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会主催の研修会、地域の勉強会への派遣を調整している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者相談の実態調査において、十分に話を聴き、本人との関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み時や見学時に要望や困っていることを傾聴し、ホームの支援内容等を説明し、家族との関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時本人、家族の要望を十分に把握し、リハビリ支援等も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅での生活に近づけるように炊事、家事等個々の能力にあった役割提供を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、誕生会への参加の連絡を取り、本人が孤立しない様声掛けしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ミニデイ等、知人との交流が続けられるように支援していけるよう心掛けている。	家族からの要望で、1人の利用者が週1回地域のミニデイに通う支援を行っている。他の利用者の馴染みの人や場との関係性の把握については、アセスメントの情報が少なく、生活の継続性に結びついた支援が少ない。	馴染みの人や場との関係性の把握に努め、利用者がこれまで培ってきた生活の継続性に配慮した支援が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席の配慮やレクリエーション参加の声掛けをし、入居者が孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院や他事業所などへの移動等の際でも相談しやすい環境を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の要望に傾聴し、職員間にて共有している。	利用者の殆どは意志疎通が可能で、直接思いや希望等を聴くことが多い。読書の好きな方に希望の本を提供し、元通訳で英会話ができる利用者には職員も英語で挨拶したり、単語等を教わることもある。日頃の会話を重視して利用者の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談時に本人、家族より聞き取りを行い、支援に役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや表情の変化を常に意識し、変化を見落とさないよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネは毎月の定例会で本人、家族の要望や意見を報告、職員からは介護状況を情報収集して介護支援計画に反映している。職員間で共有ノートを活用している。	介護計画は、更新時と状況変化時に見直しが行なわれ、6ヶ月毎に評価を行っている。個別計画には、夜間の頻尿対応やミニデイ支援等が反映されている。長期及び短期目標の期間を同一にしているケースが多々あり、検討の余地が伺えた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の様子をケース記録・連絡帳・個人ノートに記録し、定例会にて常に情報共有している。ケアマネは必要時、プランの見直しを検討している。		

沖縄県(グループホーム さくら )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望を聴き可能な限り反映できるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人、家族に聞き取りし、こちらからも援助できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を継続し、受診は基本家族対応だが状態によっては送迎支援を行っている。	受診はかかりつけ医や他科受診を含めて家族が対応している。車椅子対応の利用者の場合は、事業所が送迎を支援している。受診時は看護師が家族に情報提供書(バイタルや排泄、薬等)を渡し、かかりつけ医からは文書、家族からは口頭で報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態報告を看護師、訪問医師に情報提供し、指示を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の状態共有と退院時のカンファレンス会議に参加し、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時本人、家族への説明を行っている。ホームで行う指針や同意などの説明をし、訪問医師の紹介等協力している。	看取りに関する考え方を利用者や家族に説明し、意向を考慮しながら対応している。職員間はミーティング等で方針を共有している。訪問診療の利用者1名には、かかりつけ医より「急変時の治療(心肺蘇生法)」に関する説明があり、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い、救急マニュアルを常備している。看護師より処置の勉強会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施しているが、まだ地域との連携は取れていない。現在老健、小規模との合同訓練のみ。	隣接する介護老人保健施設及び併設の事業所と合同で年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難訓練の案内(協力)文書を地域住民へ向けて法人より発送しているが、地域の協力は得られていない。食料等の備蓄は法人の施設で管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が接遇を意識し、入居者と接している。居室や浴室等のプライバシーにも配慮している。	理念に謳われている「心の痛みを緩和し」「心の癒し」を心がけ、利用者の不安を取り除くために、本人の思い(読書好きな利用者が図書館に出かけたい等)を傾聴して、一人ひとりに向き合うケアに努めている。各居室に「利用者の権利」を掲示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定できる言葉掛けや環境づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪支援など本人の要望を聴き行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目や味、好き嫌いに応じて工夫し、根菜の皮むきや炒め等、声掛けし行っている。	隣接する施設の管理栄養士の献立で3食とも事業所で調理している。利用者は、野菜の下ごしらえや下膳等に参加し、職員も一緒に食事をしている。苦手な食材は調理法を変える(例えば、煮付けの魚を焼き魚にする)など食べられる工夫をして提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士指導のもと、食事提供している。個々の状態把握、食事形態を工夫している。		

沖縄県(グループホーム さくら )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員声掛けし、必要に応じて、介助支援行っている。口腔内の状態によっては歯科受診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄状況に合わせてトイレへの案内を行い、排泄チェック表を活用し、自立に向けた排泄支援を行っている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援をしている。夜間の自立者も半数以上いる。便秘予防のためアチビー食に変更して、多めの水分摂取の取り組み等を行っている。異性介助となる場合は利用者と家族に説明し、同意を得て支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた支援を行っている。週1、R-1飲料を提供し、朝は乳製品を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人の職員が、本人のペースで脱衣、入浴、着衣までを行い、ゆったりとした支援を行っている。	週2回の入浴を基本とし、入浴日や時間帯は利用者の希望に添って支援している。夏場はシャワー浴中心、冬場は湯船に入浴剤を入れて入浴を楽しめるようにしている。入浴を拒む場合は、体調不良か気温の変化が理由なのかを把握し、時間や入浴日を変更して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の空調等安眠できる環境づくりを行い、いつでも休息をとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師中心に服薬管理を行っている。薬の諸注意や用法についてはカルテに綴り、職員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お菓子づくりや外出支援、レクリエーションを行っている。		



沖縄県(グループホーム さくら )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状態に応じて毎日午前中を利用し、散歩支援を実施している。家族との外出支援も頻繁に行っている。	外出は、日常的な敷地内の散歩が主で、行事の時以外に事業所外へ外出する機会は少ない。これまでの生活の継続として、地域のミニデイサービスへの週1回の参加が個別のケアプランで確認できた。気分転換等の外出支援の確認ができない状況であった。	外出支援の機会として、本人の思いや意向(例えば、懐かしい場所や行きたい場所等への外出)に添える取り組みが望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すべての入居者が家族管理している。ホームではおこずかいを預かり金銭出納帳を記入、買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の要望に応じて電話連絡対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のテーブルやソファの配置を工夫し、つるげる環境づくりをしている。廊下には行事等の写真や季節の飾り付けを行っている。	居間の前面と側面はガラスで自然光が差し込み、朝の時間帯は直射日光が眩しく、レースのカーテンを使用している。廊下は広く、壁に行事の写真や利用者手作りの作品を飾っている。利用者は日中の殆どを、居間でテレビ鑑賞や会話、食事等をして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イスやソファ、テーブルの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の私物等を自由に配置し、自宅環境に近くよう配慮している。	居室には、ベッド(内3台は介護ベッド)とタンス、洗面台が設置されており、手工芸作品やカレンダーが飾られている。利用者は布団や家族写真、衣類等を持ち込んでいる。利用者が自分の部屋を認識できるように、ドアに氏名を表示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目で見てわかるように居室取っ手側に名前を記入したり、トイレの表示を工夫したりしている。		